

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1272500800		
法人名	有限会社 ひまわりホームヘルプ事業所		
事業所名	グループホーム おひさま流山		
所在地	千葉県流山市流山 8-1193-2 (電話) 04-7157-7880		
評価機関名	ユニトレンド株式会社		
所在地	千葉県柏市若葉町 3-3		
訪問調査日	平成 20年 2月 27日	評価確定日	平成 20年 3月 25日

【情報提供票より】 (平成 20年 2月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有 (円)	■無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有 (320,000円) □無	有りの場合 償却の有無	■無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	650 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (2月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2	要介護 2	1		
要介護 3	4	要介護 4	1		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東葛病院付属診療所
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から3年10ヶ月が経過し、事業所が目指している理念、「人が人として人らしく」の実現に向けた取り組みの成果が、今回のアンケートにおいて、ご家族から得た高い評価からも、強く感じとれる。また、ホームの活動の一つである、近隣の一人暮らしの高齢者の方への入浴支援やお茶飲み等、信頼関係を積み重ね、地域に根付き安定した運営を展開している。利用者の生き生きとした表情から、日常、質の高い暮らしの提案と実践がされていることが伺える。利用者の方のダンスの発表会では、参加者や家族等から好評を得られ、一人ひとりが自分らしく生きるための支援を大切にしたい、ホームの方針や職員の支援姿勢が裏付けられた場面でもあった。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	特になし
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者、職員が協同で自己評価に取り組んでいる、常に向上心を持って改善すべき点をあげ、実践に繋げている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回、運営推進会議を開き、ホームの情報を積極的に公開している。また、それぞれの立場での悩みや意見交換ができる場所として、井戸端会議的な要素を提案して活動している。市主催の会議やグループホーム連絡会を主体としての活動にも参加している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	日頃のホームでの様子は、電話や来訪時に報告している。ご家族が勤め帰りに立ち寄って行かれるなど、来訪者が多い。月一回の「おひさま便り」では、日常生活やイベントの様子を写真入りで紹介している。ご家族からの意見や要望の把握は、敬老会・クリスマス会・年一回の日帰り旅行や運営推進会議への参加を促すなど、ご家族同士の繋がりを持てるような機会や意見等を言いやすい場を設定している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目 ④	敬老会やお祭りへの参加、クリーン作戦に参加している。またインターシッパの受け入れもしており、近隣の高校との交流がある。ホームの活動取り組みとして「地域で暮らす高齢者の方に気軽に足を運んでもらえる場所」として、近隣の高齢者の方への入浴支援の成果がある。近所の方々にホーム便りを配布、行事参加のお誘いをしたりと、双方の関係は良好に築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は、関係者全員で創り上げたものである。地域での役割と利用者のニーズの現状を捉えた理念を、職員全員で考え、公募の中から互選して決定した経緯がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関内に、額に入れて明示されている。月一回のミーティングで、理念実現に向けて具体的に、個々のニーズを捉えてサービスをする大切さを毎回職員に話をして確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会やお祭り、クリーン作戦に参加。インターシップでは近隣の高校との交流がある。近隣の方々に、ホーム便りの配布や行事参加のお誘いをしている。	○	ホームを「地域で暮らす高齢者の方に、気軽に足を運んでもらえる場所」として、近隣の一人暮らしの高齢者の方への入浴支援やお茶飲み等、「憩いの場」の提供をしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員が協同で自己評価に取り組んでいる、常に向上心を持って改善すべき点をあげ、実践に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ホームの情報を積極的に公開している。出席者は、地域包括支援センター（南部地区）職員・老人会連合会長・民生委員・隣家・利用者・ご家族・職員等。	○	地域にグループホームを理解して頂く上で、現在もっとも有効な会議の場であると思われる。参加者がそれぞれの立場で、悩みやアドバイスを交換し、互いに有意義に発展することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者で組織する、「グループホーム連絡会」の世話役として活動に参加している。また、市主催の会議にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃のホームでの様子は、電話や来訪時に報告している。ご家族が勤め帰りに立ち寄って行かれるなど、来訪者が多い。月一回の「おひさま便り」では、日常の生活やイベントの様子を写真入り紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望を聴く機会を、来訪時に持つようしている。ご家族には、敬老会・クリスマス会・年一回の日帰り旅行や運営推進会議への参加を促すなど、ご家族同士の繋がりを持てるような機会や意見等を言いやすい場を設定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員育成のための移動があるが、近接事業所（同一運営主体）で職員間の交流もあり、なじみの関係は継続している。利用者への影響を考慮して移動をおこなったケースもある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム入職後、半年を経過すると、系列のシニアハウスで3～6ヶ月の研修が組み込まれている。なお、個別に面談をして研修成果を確認するなど、計画的な研修体制がある。また外部研修にも参加している。	○	計画的研修体制があり、新人教育を積極的におこなっている。研修の評価を責任者が記録に残し、今後の計画的な育成に役立てるような取り組みが望まれる。また現任研修では個々の能力スキルに応じた研修を計画的に行うことで技術や知識を身につける機会が得られるような取り組みが望まれる
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の部会では、年に一回職員同士での勉強会と交流があり、参加している。	○	地域密着型サービスの位置付けからも、事業者間の協力・協働は重要度を増すものと思われる。事業者で組織する「グループホーム連絡会」を実効性のある組織とする為にも、積極的に活動されては如何であろうか。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に至るまでに何度も利用者宅に伺ったり、また利用前からご家族と来訪してもらうなど関係を作る努力をしている。ご本人の不安な思いに寄り添い、ご家族の不安な思いに、きめ細やかな対応をされていることが、入所されたケース事例から伺われた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である、という考えを職員間で共有しており、人として学ぶことや教わることで、一人ひとりに人格の尊重や敬意を表していることが、日常生活の場面での言葉かけや行動で実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の不安に思うこと、何を望んでいるかを、日々のかかわりあいの中から把握するように努めている。帰宅願望のある方のケースでは、何度も一緒に行動を共にすることで、ご本人の思いを共感し、理解を深める努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族の希望を取り入れ、無理のないサービス計画の作成に努めている。来訪時にご家族からの情報や意見を伺って記録に残し、ニーズの把握に努めている。また、月毎のカンファレンスで日頃の様子などから職員間での意見交換やモニタリングを実施し、介護計画作成に活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しているが、随時状況によっての見直しも行っている。アセスメントを活用して、状態の変化など様子観察を行い計画を策定している。またご本人や家族からの要望に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人や家族の希望や要望に応じた支援をしている。病院に受診の付き添い、買い物などを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回、協力医療機関の医師の訪問診療を受けている。また、専門医に定期的な受診が必要な利用者については、その付き添いを職員や家族と話し合いの上で調整している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、ホームとしての指針を家族に説明している。リビングウィル（終末期の生活のあり方）の契約は、医師とご家族とで契約。家族・医師・ホームの関係者全員が統一したケアを行うべく、方針や決定事項の確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	常に尊重に意を持って対応するように心がけている。その方の状況にあわせた言葉を選ぶことや、一人ひとりの思いを受容するなど、ミーティングや申し送りノートを活用して職員間で共有している。職員の言葉かけは穏やかで自然な対応をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己選択できる場面をつくり、心身的に無理なく過ごせるような支援を行っている。家事の手伝いや散歩など、行きたい所を言えるなど本人の気持ちを尊重して行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの一番の目玉！！『豊かな食事』、贅沢の意味ではない。設立者の仕出し弁当職の経験を活かし、旬の食材で季節の料理を工夫して作っている。利用者は楽しい食事の時間を共有している。「美味しいね！」の音が繰り返し聞こえてくる。	○	買い物から準備、片付け、食事に関する作業を一緒に行ったり、利用者が愛用している湯飲みや箸を使っているの楽しい食事の時間を共有している。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に三回の入浴支援、夏には早朝散歩のあとシャワー浴を希望で行っている。また、毎日足浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみの提案をしている。食事作り・家事支援・針仕事など負担のないように注意している。また、男性の利用者にも、職員と一緒に洗濯物をたたむなどの手伝をしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りは自然に恵まれていて、川沿いの土手までがとても良い散歩コースとなっている。毎日の散歩をととても楽しみにされている。また、お花見や家族と一緒に日帰り旅行も実施されている。	○	事業所が注力している取り組みで、利用者の99%が参加している。夏はサマータイムを採用し、早朝散歩に切り替え身体への影響に配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は開放している。外に出かけてしまう利用者にさりげなく付き添ったり、安全面に配慮した暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施と、消防署の指導を得た自動火災報知機連動の非常口の電気ロックがあり、2階の避難経路が確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、カロリー計算された食事の提供と、食事量や必要な水分量について把握し調整している。また、食事前にお茶を出して水分量を確保し、夏場はボカリスエットを利用するなど、健康状態に応じた対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花が植えられおり、リビングまで続く庭先に花が楽しめるよう工夫されている。室内にはスタッフと協同で制作した貼り絵やさまざまな手作りの作品が飾られている。日当たりの良い広い床暖房を施したりリビングでは、それぞれ居心地の良い場所で過ごせるような雰囲気作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具、思い出の装飾品等が飾られている。部屋はきれいに整頓されており、居心地の良い自分の部屋となっている。季節毎に寝具の入れ替えや衣替えがご家族の協力を得て行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。